

健康メモ

今回の麻疹(はしか)の流行

広島市医師会理事
もり小児科院長 森 美喜夫

麻疹は、一般

に子どもの病気で
す。症状は発熱、咳、鼻水で
始まり、三―四



日後から全身に発疹が出ます。高熱が七―八日続いたため消耗が激しく、脳炎や肺炎を合併すると死亡することもある病気です。死亡率の高い病気で、江戸時代には「命定め」の病気であり、昭和20―30年代には年間数千人が死亡していました。現在でも毎年乳幼児を中心に一〇万人以上が麻疹に罹り、年間二〇人から八〇

人くらいが死亡しています。

麻疹には特別な治療はなく対症療法のみです。予防としては麻疹にはワクチンがあります。1978年(昭和53年)から麻疹ワクチンが定期接種になり、昨年まで普通一―二歳のころに一回接種していました。麻疹ワクチンの接種率の向上に伴い最近一〇―二〇年間は大きな流行はなくなりました。

今回の関東で始まった麻疹の流行は、二〇歳を中心にした流行です。今回麻疹に罹った人はワクチン未接種の方もおられますが、小児期に麻疹ワクチンを接種した方も罹患しています。麻疹ワクチンが始まったころは、麻疹ワクチンを幼児期に一回接種しておく、その後成長期に麻疹の流行が何度もあり、麻疹ウイルスに接して免疫が強化されています。しかし、最近では麻疹の流行がなく免疫が強化されず、二〇歳前後の

一〇―一五%では麻疹の免疫がなくなっています。

欧米では麻疹撲滅のため1980年代から麻疹ワクチンを二回接種していて、麻疹の発病は極めて稀になっています。現在アメリカでの年間発生数は一〇〇人以下で、その半数は日本からの持込で、日本はアメリカから麻疹の輸出国と非難されています。WHO(世界保健機関)からも日本は「麻疹」の汚染地域に指定されています。

日本でもやっと昨年春から麻疹ワクチンが二回接種になりました。三〇歳以上では小児期に麻疹の流行があったので多くの方が免疫を有しています。しかし、三〇歳以下で麻疹ワクチンを一回しか受けていない人は追加接種をした方がよいと考えられています。